

- 2025年度入試 主な国公立大の志望動向
- 2025年度入試用赤本入荷のお知らせ

「生き先」を目指して

保健体育科 伊東 龍司

アニメ「サザエさん」の登場人物の年齢を御存知ですか？

カツオ君やワカメちゃんは年相応だとしても、ビジュアル的なイメージから、サザエさんが24歳、マスオさんが28歳で、特に波平さんが54歳という設定にはかなり無理があると思いました。しかしよく考えてみると、このアニメは50年以上前の設定で、日本人の平均寿命、男性：約67歳、女性：約72歳を象徴しており、時代相応なのかもしれません。またその時代は、55歳で定年を迎え、60歳で年金生活に入るのが一般的でしたが、現代は、60歳で定年を迎え、雇用延長で65歳まで働く人も多くなっています。さらに見方を変えると、昔と比較して、人生において活躍できる時間が長くなったということが言えるのかもしれません。

そのような状況変化の中、これまで多くの学校が、「フリーターはダメ、よりレベルの高い学校、大学に進学することが優良企業への入社につながり、将来、幸せな人生を送ることができる」、というような進路指導を続けてきました。しかし2014年には、オックスフォード大学教授が「10年後、AIに仕事を奪われる」と予想をたてた通り、様々な場面で社会は変わってきました。「未来を悲観的にとらえるのではなく、AIを活用すれば、新たな仕事や新たな社会を生み出すことができる」、という発想も必要となってきたのです。

最近、近所のパン屋さんはAIを駆使し、パンをレジ台に乗せるだけで、自動的に形状、重さ、値段が表示されるようになりました。その分、人手不足が解消され、店員は袋詰め、「ありがとうございました」の笑顔に専念することで、人気のあるパン屋さんに様変わりしました。AIは、「仕事を奪われる」とする者の仕事を奪い、「新しい仕事生まれる」とする者に新しい仕事を与える、というのが、確かこの論文の結論だったと思います。

さらに今後の皆さんの進路を考えるためには、多様で柔軟な発想も必要となっています。我々主な教員が生きてきた時代は「きぎょう」と言えば「企業」のことを指しましたが、最近では自分の持ち味を生かして会社を興す「起業」という言葉に取って代っています。サッカー好きで、一生サッカーに携わりたいという生徒を面談した時のことです。私は、昔ながらの発想で、「少しは上手いと思うが、Jリーグでプロとして活躍できる実力もないのに、大学でサッカーをやるのは無駄な時間だ」と諭すと、その生徒は「そうではなく、大学の経済学部で、サッカーを続けながら、起業のノウハウを学び、仲間と共に各チームとタイアップしたグッズ販売やサッカーのPR等を扱う会社を起業し、一生好きなサッカーに携わりたい」という具体的なプランを説明してくれました。

自分の可能性を生かし、これからの時代を生き抜くためには、自分自身の強みを把握し、実現可能なシナリオ創りも必要であることを、この生徒から学びました。同時に、生徒を支える我々教員は、これまで行っ

てきたキャリアガイダンスの一部をバージョンアップするだけにとどまらず、時代のニーズを敏感に受け止め、プログラム全体を思い切ってアップグレードする必要性を痛感しました。

さて、3年次の皆さんは、行事・部活も一段落し、いよいよ受験モードに突入しましたね。我々教員は進路指導するにあたり、どうしても国公立大・難関大の数値に目が行きがちですが、高校生の皆さんにとって、大学受験はまだまだ夢の途中です。大学へ入学するための「行き先」ではなく、皆さんの夢が生きる先、「生き先」を目指して頑張れるよう、最後まで全力でサポート・応援をさせていただきます。そして、忘れないでください。自分の進路の価値を決めるのは、自分自身です。「大学受験で、どれだけ受かっても、どれだけ落ちて、最後に行く大学が君たちの第一志望校です」

自分の夢に向かって、迷わず進んでください。頑張れ、受験生！

○2025 年度入試の志望動向

入試の志望動向について、例年 10 月～11 月に各予備校から模試の結果を元にした分析結果が発表されます。今回は最初に発表された河合塾の模試分析結果を紹介します。なお、この分析結果は第2回全統共通テスト模試(7月実施)を元にしており、今後の模試により志望動向や分析内容は変化すること、予備校ごとに異なることに注意してください。

分析については前向きな捉え方(「共通テストの勉強をもう一踏ん張りしよう」「二次試験の勉強にも注力しよう」など)を心がけましょう。

①東京大

全科で第一段階選抜が引き下げ(文科一類～三類：約 2.5 倍 理科一類：約 2.3 倍 理科二類：約 3.0 倍)になった影響はそこまで見られず、文科一類、二類が志望者数 110%と前年と比べ増加した。文科三類および理科一類、二類は前年並み。ただし文科三類は前年の反動か成績上位者の減少が顕著に見られる。積極的にチャレンジしたい。

②東京科学大

理学院では一般選抜の定員減少に関わらず志望者数は前年比 117%に増加した。一方で物質理工学院では定員が変わらず志望者数は 89%に減少。医学部(保健-検査技術)および歯学部(口腔-保健衛生)は 129%に増加。環境・社会理工学院を除き、前年比 101%～122%と増加している。但し、二次偏差値ボーダーに大きな差は見られない。

③一橋大

経済学部(ソーシャル・データサイエンス)は 3 年連続志望者増、前年比 148%。二次の偏差値予想も上昇が見られる。しっかり対策を取りたい。社会学部・商学部は隔年で増減し、今年は社会学部 90%、商学部 110%である。また法学部は 96%と 3 年連続でやや減少している。 ※個別試験でリスニングが廃止となる。

④筑波大

共通テスト「情報」は換算得点となるため、情報による差はつきにくくなっている。総合選抜-文系では志望者が前年比 83%に減少したが成績上位層の人数は変化がないため、ボーダー得点率は例年並み。理工学群-応用理工学類は志望者数 114%と増加したが成績上位層の人数は減少、積極的にチャレンジしたい。

⑤千葉大

国際教養学部では志望者数が前年比 115%、また成績上位者が増加傾向にある。共通テストと二次試験の配点比から、二次試験対策を充分に行っておきたいところ。

⑦横浜国立大

経営学部(一般)の志望者はやや減少(87%)、しかし成績上位層の人数は前年並みのため油断は禁物である。共通

テストの配点が高いためまずは共通テスト対策を入念に。一方で都市科学部(都市基盤, 環境リスク共生)、理工学部(材料工)、理学部(理 B 方式)は 115~127%と増加傾向であった。

⑧東京都立大

二次試験で法/経済経営/都市環境/理(化, 生命科学)/システムデザイン(電気電子工以外)学部で英語が追加された。しかし志望者数はシステムデザイン学部で前年比 96%、一方化学科 111%、生命科学科 134%とその影響はあまりないと考えられる。全体では、都市基盤環境, 環境応用化学, 看護, 理学療法, 作業療法学科で 72~86%と志望者が減少。経済経営学部や理学部で 111~134%と志望者数増加が見られる。(なお、共通テスト:2次試験がほぼ1:1のため、横国経営学部志望者のうち都立大を第2志望にしている割合が例年より増えている。)

⑨東京農工大

ここ数年で農学部の志望者が 1.5 倍に増加した。志望者のレベルも上がりつつ、特に共同獣医についてはボーダー得点率の上昇が予想される。まずは共通テストの全体得点率を上げるため、得点率の低い科目からしっかり対策を取りたい。

〇2025 年度赤本が入荷しました

2025 年度入試用の赤本が入荷しました。赤本部屋奥の棚の上にあります。PTAからも補助をいただいて購入しています。大切に扱ってください。

先輩からの言葉

『自分がスペック』で突き進んで欲しい

元三菱重工業株式会社

プロジェクト主幹

三菱打上サービス射場チーム長

24 回生 濱 俊雅

進路

皆さんは、将来何を目標そうかと具体的な目標を持って進む道を考えておられることと思いますが、当時自分は非常に漠然とした『兎に角大きな物づくりをしたい』でした。その作った物を思い通りにコントロール出来る技術を習得したいとの思いから、東京工業大学制御工学科を目指し無事合格しました。大学4年、第1次オイルショックで産業界が構造不況に陥り、新卒採用を控える会社が多く2年先なら回復するかと修士まで行くことにしましたが、2年後は更なる不況(第2次オイルショック)により高度経済成長が終焉を迎えた時であったため、就職は買い手市場の就職難でした。

会社に入った動機

就職に際し、川崎重工業で造船・潜水艦設計をしていた実兄、義兄と同じ仕事をしたいと思い入社相談をした所、構造不況の事もあって親族一同同じ会社で会社が傾くと親族皆路頭に迷うと言われ、何とか三菱重工業に入社する事が出来ました。不況時、会社は本人の仕事の希望は聞くが、思いは叶わずロケット設計・打ち上げ業務に就く事となった。大きな物を作りたいと言う願いは叶ったが、想像の付かない世界に不安は可成り大きかった。不況時期でもあり入社後数年間賃金カットが続いたのも記憶にある。

ロケットは失敗するもの

入社後2年目、N-Iロケット5号機で静止衛星あやめを打上げた際、衛星が第3段から分離される際にヨーウエイトの動作に異常が発生、第3段モータが衛星に接触したため衛星に異常を来たしたと推定された。この発生状況を紐解く解析プログラムの作成を任せられ、故障時のデータが少なく開発に苦労をした。その後のN-I、N-II、H-Iロケットの打上前確認作業に使用され確実な打上げに寄与出来た。この第3段分離システムは米国デルタロケットで相当数の打ち上げ実績があるが、信頼あるシステムでも予想しえない失敗が発生するものだと痛感させられた。

自分がスペック

皆さんも記憶に新しいと思いますが、H-3初号機は失敗しています。今現在運用されているH-IIAは97.92%の成功率を誇っていて、あと9月11日打上予定の49号機と今年度打ち上げが予定されている50号機をもって退役します。この成功率達成までには、上記の様な予測しえない失敗や失敗には繋がらなかった数多くの異常データ一つ一つに真摯に向き合って分析し対策を打って完成されたロケットを作り上げて来ています。ロケット開発では、前例がない物づくりが多く、答えがあってないような物づくりです。不具合も沢山出てうんざりもします。その都度自分が設定したスペックに立ち返り、納得のいくまで見直しをし開発を進めていきます。技術は嘘をつかないとよく言われますが、それを確立するには予測と結果の照合の地道な繰り返しが必要です。

まとめ

今や宇宙は表舞台に躍り出て注目される産業になりつつあります。表舞台を見ると華々しく憧れますが、裏には苦労の連続もあります。ただ、その苦労も打ち上がっていくロケットを見ると、この仕事素敵だなと思います。自分としては、大きな物づくりをしたいという漠然とした理想から、大学、構造不況の中での就職と大きく揺さぶられた結果としてロケット設計職に辿り着きました。人生も、仕事も、皆自分自身が決めていく『自分がスペック』です。何度でも見直していけば良いと感じています。ただ重要なのは、人から言われるのではなく、自分がとことん納得し自ら設定する『自分がスペック』が大事です。頑張ってください。

番外編

高校時代から大学、社会人までずっと続けられていたバドミントンのお陰で、会社の他部門の人、打上げで現地種子島での地元の人との繋がりや信頼関係の構築に役立ったと思っています。皆さんもスポーツに限らず仕事以外の趣味などで人の繋がりを大事にして下さい。また、ロケット開発の苦難のドキュメンタリー（NHK版）もご覧いただければと思います。



※今後の予定（進路関係）

10月30日（水）分野別模擬講義

11月2日（土）駿台予備校による講演会（3学年保護者会にて）

5日（火）ベネッセ駿台共通テスト模試（3学年）

6日（水）3学年ベネッセ駿台共通テスト模試（3学年）

進研模試（1，2学年）

13日（水）駿台予備校による講演会（3学年学年集会にて）